

は し が き

言語センター長 鈴木 将 史

『言語センター広報』第21号をお届けいたします。昨年創立100周年を祝った本学の今年は、5月に起きた飲酒事故で大揺れに揺れた1年となりました。私は本学リスクマネジメント委員会に属していますが、このような形で連日委員会が開かれようとは思いませんでした。この危機を乗り越えるべく、本学は今年まさに新たなスタートを切ることとなったわけです。目を全国に転じますと、今年も大学を取り巻く状況は厳しさを一層加えております。経常的な運営費交付金は減額され、その代わりに競争的研究費が増えたものの、複数のプロジェクト予算請求を同時に行ったため、今年の前半は申請準備に忙殺された感があります。特に目玉であった筈の北大を中心とする道内7国立大学教養教育連携事業は、本学の語学教育に他の6大学が大いに期待していたのですが、いつの間にかプロジェクトそのものが立ち消えとなってしまい、狐につままれたような心持ちです。文科省の高等教育行政自体の先をまるで見通すことができません。

最近、スマートフォンの新しいアプリケーションに、会話翻訳アプリが現れ、盛んにPRされています。こうしたアプリの登場で、恐らく「トラベル～語会話」といった簡易外国語会話本は姿を消していくことでしょう。そしてこの機能が更に強化されると、外国語学習がかつての算盤のようにすたれ、外国人とはスマートフォンさえあれば自由に会話できる時代がやって来るのでしょうか。私はそうは思いません、たとえ会話ができたとしても、話す人間の中身が空っぽになってしまうような気がします。自動車やコンピュータといった文明の利器は、便利である反面、使用する人間の本来の能力を弱める結果も招きました。勉強の原点ともいえる外国語学習を人間が捨てると、空いた時間で他のことも学べるでしょうが、極めて大事なことを失ってしまうような気がします。外国語学習は単なるコミュニケーションスキルの伝授のみならず、人としての見識や知性を高める役割も担っていると私たちは信じ、日々語学を教えています。

それでは本年の言語センターの動向をご報告いたします。本年度も「外国人による集中外国語講座」を「英会話」(ジェイミー・ケンプ講師)、「中国語」(高翔講師)、「ロシア語」(アレクサンドル・ポリーソヴィッチ・スペヴァコフスキー講師)、「韓国語」(宣憲洋講師)、についてそれぞれ10回(中国語は前・後期10回ずつ)、そして「日本語学」(高野教員)を同じく10回開講し、好評の内に日程を終了しました。研究面では、概算要求プロジェクトによる教育開発センターとの共同特定研究「21世紀型市民の育成に向けた学習支援プロジェクト」研究が本年度に最終年度を迎え、吉田教授をプロジェクトリーダーとして今年も活発に進められました。また、本学出身の中学・高校教員と本学教員が参加して英語教育・商業教育が研究・討論される第25回「教職研究会」が今年も2号館マルチメディアホール2を会場に12月8日に開催され、盛会裡に終了いたしました。人事としては、新任スタッフとして、昨年4月には個別言語部門スペイン語系田林洋一准教授が着任されました。また、本年4月より比較言語部門高橋純教授が特任教授に就任されます。更に極めて残念なことですが、吉田直希教授が本年4月より成城大学文芸学部へ転出されることとなりました。

それでは各教員の海外出張についてご報告いたします。

鈴木 将 史

個別言語部門中国語系嘉瀬達男准教授は、中国近代文献学に関する資料調査のため、科学研究費補助金により、平成24年9月9日から9月14日まで北京大学図書館および中国国家図書館へ出張されました。また同准教授は、東北財経大学60周年記念式典出席のため、特別事業費により、和田副学長、穴沢国際交流センター長に帯同して、9月26日より9月29日まで東北財経大学へ出張されました。応用言語部門高井收教授は、異文化コミュニケーション資料収集のため、教員研究費により、9月25日より10月5日までオレゴン州ポートランド州立大学へ出張されました。個別言語部門中国語系裴崢教授は外国語教授法等に関する調査、資料収集のため、教員研究費により、8月26日より9月16日まで北京語言大学及び北京図書館へ出張されました。個別言語部門英語系吉田直希教授は、科学研究費補助金等により、18世紀英文学研究に関する資料収集のため、9月22日より8月28日までダブリン大学トリニティカレッジへ出張されました。個別言語部門英語系羽村貴史教授は、ユダヤ研究資料収集のため、教員研究費により、9月13日より9月21日までマサチューセッツ大学アマースト校へ出張されました。個別言語部門フランス語系江口修教授は、アリアンス・フランセーズ・アジア・オセアニア地区総会出席のため、札幌日仏協会出張旅費により、12月13日より12月17日までタイ・バンコクに出張されました。イブラヒム・ファロウク助教は、E-LEARN 2012-World Conference on E-learning in Corporate, Government, Healthcare & Higher Education での学会発表のため、プロジェクト経費により、11月26日より12月2日までオーストラリア・パースへ出張されました。比較言語部門高橋純教授は、ロマン・ロランの手稿閲覧調査のため、教員研究費により、平成25年2月27日から3月9日までパリ・フランス国立図書館に出張される予定です。

以上のように、本年度も言語センターの活動は旺盛なものがありましたが、特に英語以外の外国語系は、都合8回の会合を開いた上で、来年度からのセメスター制度導入を決定いたしました。英語系に遅れること5年での半期制開始ですが、これで本学のほぼすべての科目がセメスター制となり、学生のより弾力的な科目履修が可能となることでしょう。この制度を最大限に活かしつつ、本学言語センターは来年度も活発な活動を続けてまいります。

最後に、本学言語センター特任教授の君羅久則先生、杉村泰教先生、高井收先生が平成25年3月31日をもって再雇用期間の満了により退職されます。3先生は長らく本学の英語教育並びに英文学・英語教授法研究に絶大な貢献をされ、平成3年の言語センター設立にもご尽力されました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。